

OB OG 紹介

フィリピン⇒広島のビデオインタビュー

フィリピン での生活

今のお仕事は?

幼稚園から高校3年までの多国籍の子供たちが学んでいる”International School Manila”で日本文学を教えています。この学校では、フィリピンの色々な国際機関や日系企業に派遣されている日本人の子供たちが勉強しています。私の授業は、日本語をネイティブ(母語)として話す子供たちを対象にしています。日本の国語と似ていますが、少し内容は異なっていて、日本文学の作品を読んで解説できるようになるという訓練を主にしている授業ですね。国際バカロレア(International Baccalaureate)という、世界的にインターナショナルスクールで使われている教育システムがあるんですけど、その一環の授業の一つということになります。国際バカロレアって最近日本でも取り入れられているんですが、あまり皆さん知らないですよ?日本の公立学校でも実験的に導入され始めている教育で、私が教えているのは高校レベルの教育システムです。だから私の生徒はピュアの日本人、もしくはハーフの日本人で、夏目漱石の『こころ』を読むことができるくらいのレベルです。世界の多くの国で、大学教育の準備コースとして認められていますので、卒業したら、世界中の色々な大学に受験していきます。

総合科学部
総合科学科
昭和
63

野村
幸代
へろニモさん

今のお仕事に着かれたきっかけは?

大学時代に、今も総合科学部にいらっしゃる高谷先生の人類学を学んでいました。色々な国の文化を勉強するのが面白くて、色々アジアに海外旅行も行ったんですけど、行った先で日本とは違った貧困の現実があるのを知って、いわゆる開発とは何なんだろうって疑問に思うようになりました。1992年に総科を卒業する時点で開発学を勉強するために留学しようと思っていたんです。開発学で有名なのはイギリスですが、開発の勉強をするのに途上国の生活を経験して理解しながら学ぶ方が面白いなと思って、留学先をフィリピン大学にしました。

フィリピンってNGO(非政府組織)の活動が盛んで、日本よりずっと進んでいるんですね。開発の勉強をしていく中でNGOの活動に参加させて頂く機会があって。そこで弱い立場にいる人たちが、知識を得たりトレーニングをしたりして力を得て、今まで出来なかったことが出来るようになっていく。その力をつけていくエンパワメントの過程がすごく面白いなと思って、それに関わるような仕事につきたいと思い始め、NGOのお仕事に関わるようになりました。

人々の「ために」ではなく、
人々と「ともに」

ICAN INTERNATIONAL
CHILDREN'S
ACTION
NETWORK 認定NPO
法人アイキャン



▲アイキャン(ICAN)が日本NGO連携無償資金協力という外務省の資金を受けることになったとき、在フィリピン日本大使と握手。

NGOの活動は例えばどのようなものが?

一つは、フィリピンの路上で生活している子供たち(ストリートチルドレン)が路上から安全で必要な教育が受けられる環境に移れるように支援していく仕事。Street educatorというスタッフがいるんですけども、路上に出て行って、子供たちを集めていろんなセッションをするんですね。路上にいるっていうのは、色々な事情があるわけですが、いい状況ではありません。それを簡単に変えられることではないんですが、そこから抜け出せるように導いていきます。単純に学校に行けない子供たちに奨学金を出しているようにするプロジェクトや、山奥の先住民の村にフィリピンの教育省と話し合いしながら学校建設をするプロジェクトもありました。あとは、結核とかがすごく流行っているんですけど、地域のヘルスボランティアのお母さんたちを教育して、病気を予防したり、速やかに治したりできるようにするトレーニングをするプロジェクトとか。後、戦いがしょっちゅう起こっているような地域で、武器を持たないで相手と上手にコミュニケーションをとることを学ぶセミナーをしたりと色々な活動を行っていました。

▶ミンダナオの学校建設プロジェクトで、完成式スピーチ。後ろの建物が新築の校舎。



その中で一番印象深い出来事は?

先住民がフィリピンにたくさんいるんですけど、そういう地域に小学校を建てて、初めての卒業式に出席したときに、保護者代表のお父さんが、スピーチで泣かばかりに喜んでくださったことがすごく印象に残っていますね。たぶん日本だと学校に行けないことがあまりないので、その意味が伝わらないかもしれないのですが、その地域では学校が無いせいで、子供達を山道をテクテク2時間かけて隣の村まで行かせないといけなかった。しかも貧しい村なので、朝しっかり食べられない子供たちが歩き疲れて、学校に着いた時には勉強も十分にできないじゃないですか。自分の地域に学校があるというのはありがたいことなんです。また先住民は差別を受けていて、就職にも影響したりもするんです。そんな中で、自分の子供たちには知識も教養も持ってきちんと社会に出てほしいと、地域の人は願ってるわけです。まだ就職まで先は長いんですけど、小学校を卒業できたってこともすごく大変なことで、大きな達成感だったんですよ。そういう背景を考えると、やっと我々の地域の小学校で卒業生を送り出せる、というお父さんの涙のスピーチはすごく心に残りました。そんな喜んでもらえる学校を一緒に作れたことがとても嬉しかったですね。



▲広瀬アリスさんをアイキャン(ICAN)の路上の子どもたちの事業地へ案内。

フィリピン と日本 で価値観の違い はありますか？

結局のところ、一番思うのは人間に大きな違いはないんだなということなんです。フィリピンの方がのんびりしているので、細かい違いはありますけどね。日本の良いところでもあり悪いところでもあるのが、一生懸命さ。例えば仕事とプライベートを分けて仕事を優先するのは、日本の発展を促進したのかもしれないけど、逆にひどくなると過労死さえ生んでしまう。そういう意味で、日本はもう少しおおらかさがあっていいのかなって思いますね。逆にフィリピンはおおらかすぎて、もっとけじめをつけて欲しいということもあります。



▲1999年にフィリピン男性と結婚し、子どもは男の子2人。

自分の興味を
突き詰めた

大学時代

▲広島大学の卒業式

総科でどんな勉強を？

地域開発コースの民族社会研究で、社会人類学や文化人類学、いわゆる発展途上国研究ができるコースだったので、発展途上国の経済や社会を学んでいました。他にはフランス語を第二外国語で学びましたがあまり興味を持ってなくて、中国に旅行に行ったのをきっかけに、中国語を単位が必要ないのに勉強していましたね(笑)

もともと発展途上国に興味が？

大学に入って面白いと思ったのが文化人類学の授業で、大体扱う地域が発展途上地域だったし、特に色々なアジアの文化に興味があったので、必然的だという感じですね。総科で学んだことが結果的に将来の仕事に役に立ったと思っています。文化人類学って文化によって色々な価値観があって、それぞれに意味があって、それぞれの地域の人が正しいって思っている価値観は多様なんだということを習いました。それは他の地域の人と付き合っていく上で大事だったなって思います。

フィリピン大学で学ばれた開発学とは？

具体的には、college of social work and community development という学科なんですね。その中にwomen and development program(女性と開発)というコースがあって、主に女性という切り口を通して開発を見ていきます。いわゆる社会の中で男性優位の地域ですと、開発プロジェクトというものに女性という視点を持っていないと女性を取り残されてしまうことがある。女性に対する配慮がされてないプロジェクトが進められていることが多いのでそこを学んだり、あとフェミニズムも学びました

自分が大学時代にやっておきたかったことは？

大学で教職を取っておいたら良かったなって思いました！将来先生にならないと思っていたけど、結局、先生になりましたので。今となっては、教え方も色々学べたと思うし、資格を持っているっていうのはまたプラスになるので。その時にどこまで役立つかわからなくても、チャンスがある時に取っておいたほうが良かったですね。



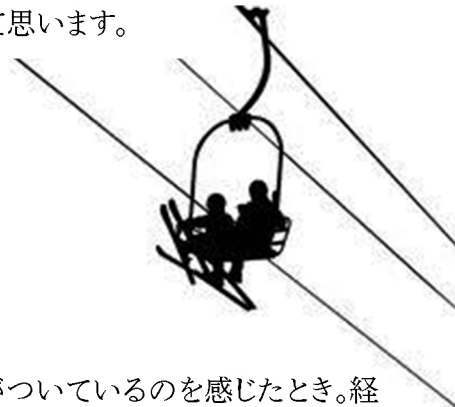
▲インタナショナルスクールマニラの言語の先生達。フランス語、スペイン語、韓国語、フィリピン語、中国語、日本語。



▲フィリピン大学の寮の友達たち。

大学時代に勉強以外に打ち込んでいたことは？

今もありますか？基礎スキー同好会。広大のサークルで、総科の先輩がたくさんいたのでそのまま入って、結構お金と時間を使いました(笑)結局スキーはここ20年以上やってないけど、その時の友人関係は今も続いているものもあるんで、ありがたいなって思います。



今の仕事のやりがいは？

やっぱり生徒たちの力がついてのを感じたとき。経験はまだ長くないですが、成長が見られたりするのすごくうれしいです。自分も文学や教え方の知識をつけて、今の仕事を突き詰めていきたいですね。



総科生へのメッセージ

今いる恵まれた環境をしっかりと活用して、なんせまず、しっかりと勉強することですよね。勉強することは学生の特権なので、みなさんしっかりと勉強してほしいです。仕事を始めたらまたその勉強もあるかもしれないんですけど、色々な科目を学ぶのは今しかできないので。自分の興味があることに取り組むことでその後が開けると思います。